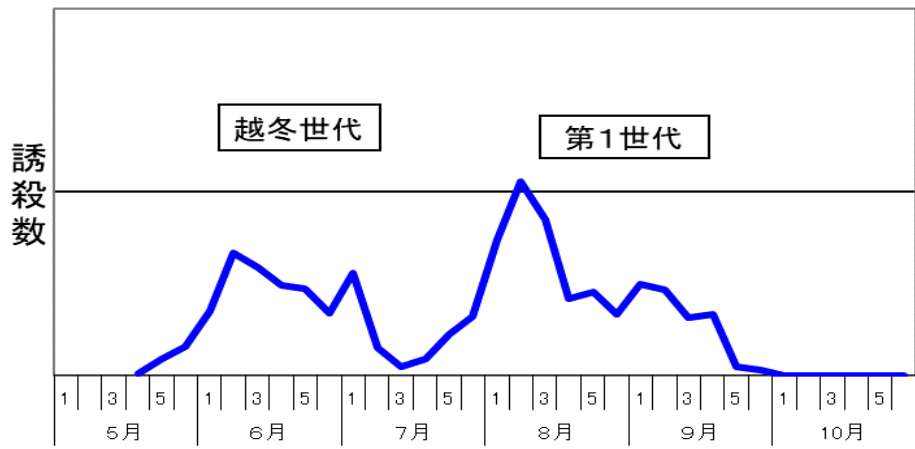


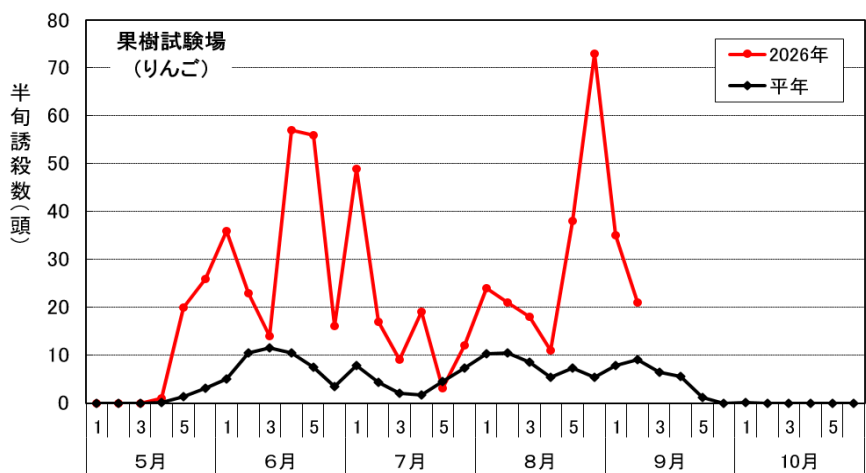
モモシンクイガのフェロモントラップ誘殺消長〔令和8年(2026年)調査〕

病害虫防除部

過去10年間の消長模式図（果樹試験場内 試験場予察ほ）



○県予察ほ（須坂市・果樹試験場）



【発生生態と防除のポイント】

- ・標高600m以下の平地では年2回が大半である。
- ・準高冷地及び日照の少ない山沿いでは年2回発生が主体で、1回発生が混在する。
- ・越冬世代成虫は6月上旬から始まり、7月に入ると盛んになり、8月上旬まで続く。産卵は7月になると急増し、産卵最盛期は7月中下旬で、大半は「がくあ部」に産みつけられる。
- ・第1世代成虫は8月上旬から発生し、発生最盛期は8月中～下旬である。産卵最盛期は、成虫の発生期とあまり変わらない。
- ・防除はふ化幼虫の食入防止を中心とする。6月下旬から概ね2週間間隔で9月上旬まで防除する。特に7月中下旬と8月中下旬は重要な防除適期である。

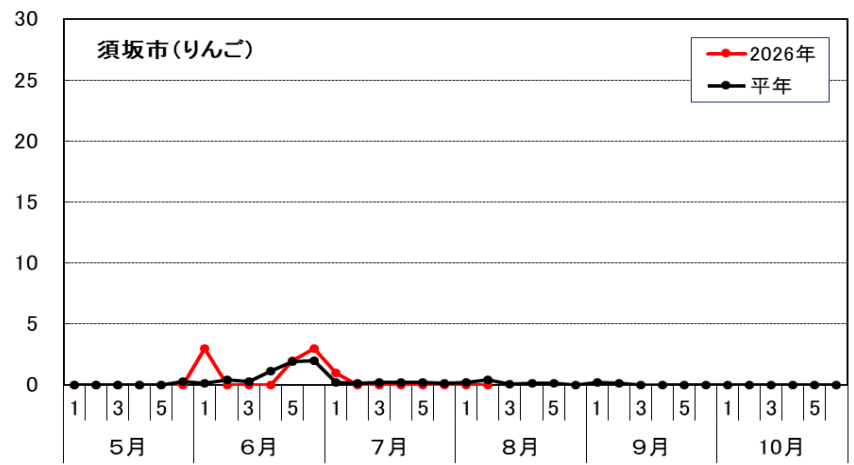
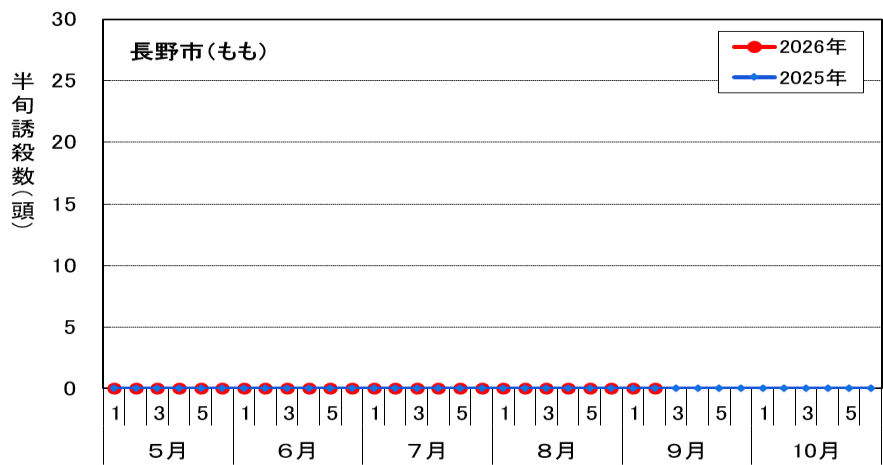
【調査地点】（標高約350m）

- ・須坂市 長野県果樹試験場（りんごほ場）
- ・平年は2016年～2025年の平均値

【コメント】

- ・発生消長の波が大きく、誘殺量は全般に平年よりかなり多い状況が継続しており、8月第6半旬に、ここまでの最大値、半旬で70頭の誘殺があり、平年の7倍を記録している。

○長野市・須坂市（病害虫防除部）



【調査地点】（標高約370m）

- ・長野市（ももほ場）
- ・2024年からほ場を変更したため、平年値なし。

【コメント】

- ・本地点は、例年誘殺頭数が極めて少ないが、本年もまだ誘殺は記録されていない。

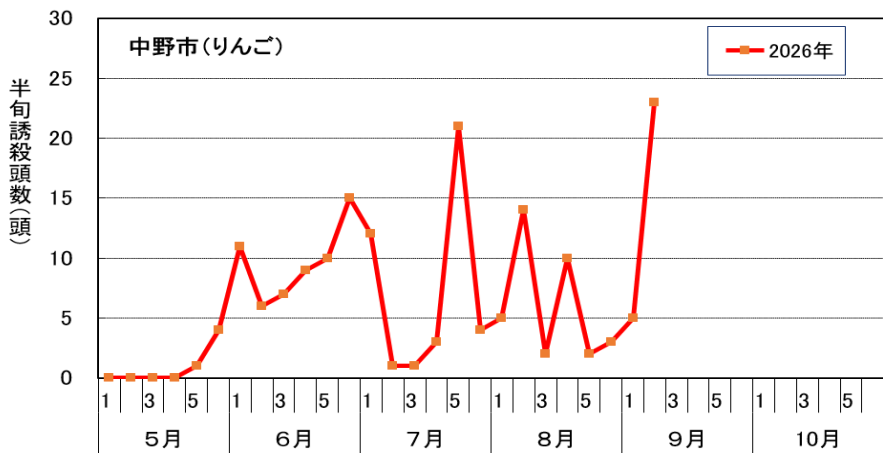
【調査地点】（標高約430m）

- ・須坂市（りんごほ場）
- ・平年は2016年～2025年の平均値

【コメント】

- ・7月初旬以降、誘殺を観察していないが、本地点では平年と同様の傾向である。

○発生予察ほ（中野市・病害虫防除部）



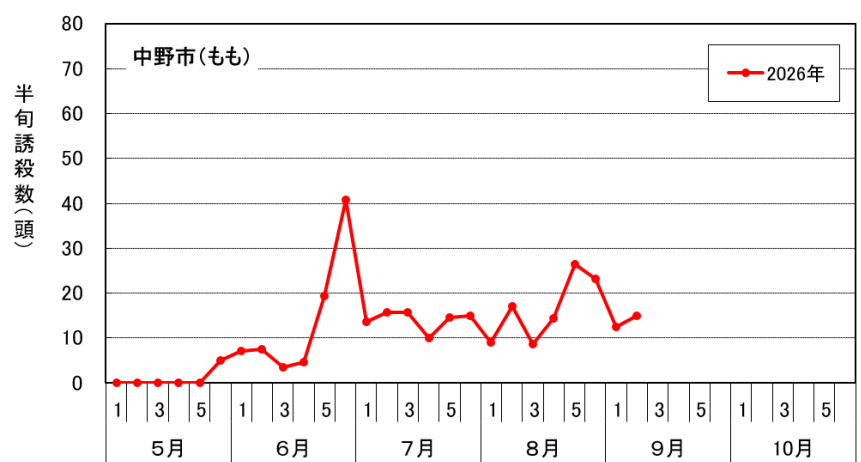
【調査地点】（標高約370m）

- ・中野市（りんごほ場）
- ・2026年より設置のため、平年値および前年値なし

【コメント】

- ・誘殺の波が大きい。7月後半からは増加と減少が交互に見られることが多かったが、8月下旬以降は徐々に増加し、9月第2半旬まで3回連続増加している。

○中野市（北信農業農村支援センター調査協力）



【調査地点】（標高約370m）

- ・中野市（ももほ場）
- ・2026年より設置のため、平年値および前年値なし

【コメント】

- ・7月以降、誘殺はされるが、増減の幅は小さく、ほぼ一定数が入り続けるような状況であった。8月下旬から増加が続くような兆しもみられたが、その後戻りつつある。